

令和3年度 学校関係者評価書

		鈴鹿市立深伊沢小学校				
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	達成状況	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点	
1	学力向上 ①ICTの利用推進	①ICTの利用推進 〇2学期末アンケート「ICT利用や教材の工夫をしてわかりやすい授業をしている」 満足度 保護者 96%。	〇ICTサポーター2回/月配置 〇9月の臨時休業時オンライン授業をすることになり、各教員ICT使用スキルアップやより効果的な利用方法を見つけることができた。 △推進目的の一つである「プログラミング教育」への取り組みが遅れている。	〇コロナ禍の中、急な臨時休業にもかかわらず、オンライン授業等教員の方々はいろいろな工夫をし、わかりやすい授業を行っていることに敬意を払います。先生の声が聞けたということで、子どもたちも安心したように思います。ただ授業後頭痛を訴える子どももいたということで、通常とは違う時間帯でもよかったのではないかと思います。保護者アンケートからも満足度が96%となっており、子どもたちも支障なく授業についていけていると思いますが、今後個人差が出ないような細かな指導をお願いしたい。 〇オンライン授業の実施により、操作技能の定着につながったのではないかと。今後も効果的に使用し、学力の向上定着につなげてほしい。 〇教師、児童ともにさらなるICTに関する研修が必要になってくる。 ●オンラインゲームができるような抜け道があり、制限をかけるべきでは。 ●オンラインの機会が増える分、直接会って話すことが減りコミュニケーションの取り方が難しくなってくるのではと危惧します。目と目を合わせ話せる雰囲気を感じる機会を増やして欲しい。 ●子どもたちの聴く力を伸ばすためには、保護者の聴く、話す力に対しての理解を深める必要があると思います。	〇教育委員会より今年度はオンライン授業初年度ということもあり、使用制限はかけていないということであった。今後はネットモラルや使用目的を重視していく。 〇今後は、学校のみならず、家庭にも子どもたちのコミュニケーション力の強化について発信し、協力していただく予定である。	
2	人権教育 ①命を大切にするとともに一人一人の特性を認めあえる集団づくりの推進	①命を大切にするとともに一人一人の特性を認めあえる集団づくりの推進 〇2学期末アンケート「命を大切にするとともに、一人一人の特性を認めあえる集団づくりを推進している」 満足度 保護者 95%	〇5年生において弁護士をお招きし、「いじめ防止授業」を実施した。 〇11月の校区人権教育授業研究会に向けを低学年・中学年・高学年で実施。 〇1月に開催予定の人権集会に向け全学年で取り組む。	〇中学校区のアクション事業に参加し、子どもたちの活発な意見交換に感心した。保護者の満足度も昨年と比べ大幅に改善されよと思う。 〇1人1人が楽しく過ごせる家庭、学校、地域のために相手思いやり小さなことも見逃さないことは大切である。今後さらに家庭でのコミュニケーションの重要になってくる。基本的なあいさつができる子、命の大切さを知り、思いやりを持つ子を育てるには家庭、学校、地域が一体となる必要がある。 〇命や集団生活の大切さについて、アンケート結果から否定的な解答には変化はない。時々下校の様子を子どもから聞くことと悪口を言いあうこともあり、もめことが解決できずそのままになっているように感じることがある。 〇ほかの子どもの嫌がることをしないという風土をさらにつくっていく必要がある。 〇「いじめ防止授業」を実施することで、子どもたちへの意識付けとなっていると思う。 〇中学校区の人権コンサートで知らない曲が多くて退屈だったという感想があると聞いたが、人権に関する講演等で子どもたちが楽しめるという内容は想像するのが難しい、考える機会を提供するのが大人の役割だと思う。 〇発達段階の応じた学習内容を工夫することにより、人権意識が高まったかどうか具体的な児童の言動を知りたい。 〇支援学級に対する理解をより進めていく必要がある。	〇人権教育については中学校区内の連携がとても大切であり、引き続き中学校区で足並みをそろえ行っていく。また、「いじめ防止教室」を来年度は複数学年で実施したいと考えている。 〇支援学級を紹介する機会を所属児童のいない学年にも増やしていく。	
3	生徒指導 ①SC, 外部機関の活用	〇途切れない支援のための引継ぎ会の充実(子ども家庭支援課、関係機関) 保小中の接続期に行う支援会議 5回	〇OSC利用者数 児童 1名 保護者 4名 〇通級児童 2名	〇子どもや保護者への対応に丁寧に話を聞いていただいていると思います。 〇家庭でのゲーム時間の制限などの規律が大切になってくる。 〇クラス替えのできない環境で、人間関係が固定化しないように日ごろの観察をしっかり行い、情報共有を密にしていっていただきたい。小規模校の弱みを強みに加えるよう全職員で全校児童を見守ってほしい。 ●スクールカウンセラーとの相談する機会をもっと増やしてほしい。	〇保護者と学校がより連携し、情報共有を行い子どもたちを見守っていきたくと考えている。 〇SCとの相談機会について、中学校区に1名配置の基準があり、すぐに回数を増やすことは難しいが、中学校と連絡調整をさらに進めていく。	
4	学校経営 ①学校通信, HPによる情報発信 ②働き方改革の推進	①学校通信, HPによる情報発信 満足度保護者97% ②時間外労働削減(昨年度より) -1時間 4月から12月まで、1人当たり月15時間	①〇学校通信12月末第32号発行。HPに随時アップロード。 ②〇月3回のノー残業デーを実施。12月末現在 31回実施	〇学校便りが地区回覧と一緒に全家庭に回っていることは地域に学校の様子を伝える手段としてはとても良い。学校便り、HP等学校行事児童の学校生活の様子がよくわかり、安心する。今後もリアルタイムでアップしていただきたい。保護者の満足度が97%であることから、情報発信は充実している。 〇コロナ禍の中、社会見学運動会等できめ細やかな工夫をしていただき思い出に残る学校生活を子どもたちはおくれ、感謝する。 〇児童アンケートの結果で、「不満がある」は少数ではあるが、この少数の子どもへのフォローが大切である。 〇保護者アンケート結果の「ステップ学習」の満足度が低いが、どのような方法を希望しているのかを知りたい。 〇時間外勤務削減の取り組みを引き続き期待する。 〇子どもたちを支援するには先生方自身の健康が大切であるため、今後も働き方改革の推進を継続していただきたい。	〇今後も学校の生の様子を伝えられるよう、学校便りの発行、HP等へのアップロードを引き続き行っていきたい。 〇アンケート結果をもとに今後も指導を継続していくとともに、その結果からさらに真意も調査していきたい。	
5	地域との協働 ①FCE2021の企画・運営 ②ボランティアの活用(学習・読み聞かせ) ③環境整備	①コロナ禍のため中止 ②ステップ学習(月1回)、読み聞かせ(月1回)実施、いもの植え付け・収穫 ③年間4回実施	①△外部の方々を招きスポーツイベントを企画していたが、コロナ禍のため開催することができなかった。 〇代替として、2月の6年生を送る会を保護者参観として計画している。 ②△コロナ禍のため2学期後半からの開催となり、回数も減った。 ③〇例年通りの開催できた。 △刈り取った草の処理場所に困っている。	〇コロナ禍にあっても、小規模校の特性を生かし例年通りの学校行事を実施されたことを委員として敬意を表したい。一部行事が縮小中止となってしまったがこの状況では致し方ない。今後も子どもたちの活動を柱に、できる限り何らかの形で実施し、家族地域に広げることができたらよい。 〇FCE2021の中止はやむ負えないが残念であった。外部から人を招かなくても、以前のように地域の方々と昔の遊びや校庭で竹馬、缶蹴りなど開催できたのではと反省している。あるいは仲間作りの場として児童のみの活動を考えるのはよかったのではないかと。 〇参観する機会が減り、子どもたちの成長の様子を実感できなかったことが残念である。 〇読み聞かせはとても静かに聞いてくれており、やりがいをを感じる。 〇秋の手ほりは子どもたちが生き生きと活動していると思う。野外で土に触れ、実物に触る体験は子どもにとって大切なことだと思う。 〇ボランティアも中止が続いていますが、ステップ学習では、苦手な科目を取り組んでいく中で子どもたちは切磋琢磨し取り組んでいる姿が見られ、また子どもたちの学校生活にもメリハリが付き、地域も育ててもらっている感じがして今後は是非とも開催していただきたい。 〇ボランティアの方々の人員補充のため、もっと若い世代の方々にも声掛けをしてみようか。 〇刈り取った草は校庭の隅においておけば枯れるのではないかと。 〇来年度は刈り取った草の処理の変更を考えている。	〇来年度、FCEは以前のような地域と共にこころなうスタイルに変更していきたいと考えている。学校運営協議会委員の方々やPTA役員の方々も熟議をすすめていきたい。 〇環境整備で出た刈り取った草の処理については、PTA役員の方々からの新しい方法をすすめていきたいと考えている。	